

進路・キャリア通信

令和8年7月17日 第7号
進路指導・キャリア教育担当

中三の夏

この一学期の三ヶ月半はみなさんにとってどんな時間だったでしょうか。また、どれだけ長く、あるいは短く感じられたでしょうか。手にした通知表とともに、よく振り返ってみて下さい。

さて、明日からは夏休みが始まります。多くの人が、中学校に入って初めて「部活動のない夏休み」、「自分のためだけに時間を十分に使える夏休み」を迎えるわけです。そこで、この「十分な時間」の使い方ですが、とくに進学を希望している人、言うまでもなくわかっていますよね？「そんなこと、いちいち言われなくてもわかっていますよ」、「しつこいなあ、うるさいなあ…」という声が聞こえてきそうですが…ちょっと振り返ってみて下さい。

例えば期末試験の試験勉強。2、3日前にならないとエンジンがかからなかった人、一夜潰けのパワープレーにすべてを賭けた人、試験が終わって点数だけ見て解答用紙の中身をよく見直していない人、鼻からあきらめていた人、終わってから「もう少し勉強しておけばよかった」と後悔した人…。あるいは、試験後にノートやワークブックの提出期限を守れなかった人、先生に何度も言われてやっと提出した人、殴り書きで答えを丸写しにして提出だけした人、結局未提出の人…等々、思い当たる点はないでしょうか？

終わってしまっ、出た結果について後悔しても『後悔先に立たず』です。しかし、「後悔しても仕方がない」と気持ちを切り替え次に向かうのと、「反省を生かさない」のは全く意味が違います。

8～12月までが勉強に関しては、生徒諸君のここまでの人生の中での最大のヤマ場です。ここまでの中学校生活の反省を生かして、この5ヶ月間をどう過ごすかが、先の人生の3～5年間を決めるといっても過言ではありません。本当に「必死になる」ことを、そして嫌なこと、つらいことから逃げず、自分自身としっかり向き合うことを実践していきましょう。

『光陰矢の如し』（意味：月日の経つのがとても早いこと。月日の経つのはあっという間で二度と戻ってこないから、無為に送るべきではないという戒めを含んでいる。）と言います。反面、時間はまだあります。さあ、どうしますか？



三者面談、ご協力よろしくお願いします



すでに各担任から通知されている通りの日程で行わせていただきます。短時間ではありますが、有意義な時間にできるよう努めたいと思います。また、面談時に夏休み中にお願いしておきたいこと等の話もあると思いますがご協力、よろしくお願いいたします。

多様な学び方



現在、毎日のように上級学校の先生方が新座中に訪れパンフレット等を届けてくれています。その中で特に増えてきていると感じられるのが広域通信制高等学校やサポート校と呼ばれる種類の学校です。

昨今、「個別最適化した学習形態、学習内容」「学びの多様化」「個性を伸ばす」といったワードがとて多く聞かれますし、望まれてもいます。考えてみて欲しいのは、中学校卒業後は学び方も自分の考えで自由に選べるということです。前回の進路希望調査では、95%超が進学を希望していました。そしてそのほぼ100%近くが既存の全日制普通科の高等学校名を挙げていました。中学校もそうですが既存の全日制の高等学校も「個別最適化した学習形態、学習内容」「学びの多様化」「個性を伸ばす」といったことに努力をしています。

しかし、1クラス40人規模であったり、決まったカリキュラムを、とくに普通科の高等学校では中学校と同様に広い分野の内容を満遍なく学習したりという点では同じで、かつより難しい内容になっています。では、とくに今現在、中学校の学習が思うように身につけられないと感じたり、助けが欲しいと感じたりしている人、学校に通うことに気持ちが重かった人、将来について具体的に強い希望がある人…等々、既存の全日制普通科の高等学校を選ぶことが本当に得策なのでしょうか？

訪問してきてくださる先生方の話や過去の卒業生の生き活きとした様子なども聞くとそんな風にも感じることも多いものです。確かに、少人数の生徒を手厚く指導してくれたり、登校のパターンを選べたり、自分のやりたい学びを豊富に選べたりするといった、自分の思いを聞いてくれて応援してくれるのって、確かになんだかやる気が出そうですね。

進路先を考えるのに、選択肢が多くなってきたものです。